



鳥羽市は「自ら学び心豊かにたくましく生きようとする人間の育成」を目標としています。

とばし教育委員会 だより

2019. 9. 1 第17号



キャンドルをつくろう



初めての羊毛フェルト



楽しく陶芸



「やったー できたよ!!」夏休み体験講座

生涯学習講座では、市内小学生を対象に夏休み体験講座を開催しました。子どもたちは講師の先生に教えてもらいながら、一生懸命作品づくりに取り組み、夏休みの楽しいひと時を過ごしました。作品が出来るとみんな「できた!!」と笑顔でいっぱいになりました。

鳥羽市イングリッシュキャンプ In 安楽島小学校

「国際観光文化都市鳥羽」の将来を担う子どもたちの国際的なコミュニケーション力の育成を目指すため、今年度は安楽島小学校と鳥羽東中学校を英語モデルスクールに指定し、様々な取組を行っています。ここでは、夏休みに行われた安楽島小学校6年生児童対象のイングリッシュキャンプの様子を紹介します。



午前の部



ALT（外国人英語指導助手）や同級生たちと楽しく英語でコミュニケーション活動を行いました。教室内のあちこちに貼られた英語で書かれたヒントをグループで力を合わせて集めたり、教室を歩き回りながら相手を探し、英語を使って好きなフルーツなどを聞いたりしました。マリオカートを題材にしたゲームでは、みんな大はしゃぎで楽しんでいました。

午後の部

一人ひとりが事前に調べた「鳥羽で紹介したい人やもの」についてALTの力を借りながら英文にし、プレゼンテーションを行いました。「鳥羽水族館」や「御木本幸吉」「みなと祭り」などについて、写真やイラストをテレビに映して英語で発表を行いました。発表を聞いていたALTからは「鳥羽についてよくわかりました。たくさんの人に伝えてくださいね。」といった声が聞かれました。





かどや たかひさ
屋 貴久さん
(昭和37年7月1日 57歳)

飯南高校、鳥羽高校、宇治山田商業高校、志摩高校、伊勢高校を経て今年度より鳥羽高等学校校長に就任。鳥羽高校は2回目の勤務で、前回は平成2年度～11年度の10年間勤務し、剣道部、女子バスケットボール部、定時制軟式野球部の顧問を務めた。

「地域に学び、地域を学ぶ」

本年四月より赴任しました校長の角屋貴久です。

私は、以前、平成二年四月から平成十二年三月まで十年間鳥羽高校に勤務していました。管理棟は新しくなりましたが、教室棟、体育館、グラウンドは当時のままで、明るく、元気な生徒も当時と変わっていません。国際観光文化都市である鳥羽、そして、歴史と伝統ある鳥羽高校に再度勤務することになりました。よろしくお願いたします。

さて、本校では、めざす学校像を「これからの地域社会を支える若者が育ち合う学校」とし、地域や社会の課題について、主体的に考え、行動する人材を育成するため、地域に学び、地域を学ぶ取組をより一層推進しているところです。

また、「挨拶」を今年度、学校全体の取組とし、明るい挨拶であふれる学校にしていきたいと思っています。私が生徒に玄関で「おはようございます。廊下で「こんにちは。」と声をかけると生徒からは毎回元気な返事が返ってきます。

次に学力定着に向けて「わかる授業」「主体的に参加できる授業」をめざした授業研究をさらに進め、さらに、観光教育の視点、地域に根ざした学習活動も積極的に展開する予定です。特に今年度は県教育委員会から地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業の指定を受け、一学年の「産業社会と人間」、二学年の文理進学系列の「鳥羽学」で鳥羽市などから様々なご協力をいただきながら現在、取り組んでいるところです。

また、進路指導では、三重大学教育学部で実施されている地域推薦入学試験を目指す進学体制の充実を図りたいと考えています。将来的には、鳥羽市の奨学金を活用しながら勉学に励み、この地域で小学校教員として活躍する人材を育成したいと考えています。

このように本校では、「学力向上」「生徒指導」「地域連携」の三つのワードを重点的な課題として教育活動を進めています。これからも地域の皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。

文化財紹介
丸山庫蔵寺



袴を命じ、城主本人もお参りすることもあったほどでした。登り口の彦瀧さんからしばらく歩くと最後に急勾配の48段の石段があります。石段の登り口には「不許肉五辛入門」と戒めを記した石柱が立てられています。

それを登り切って門を潜ると、前に国の重要文化財に指定されている本堂（ぐもんじ堂）が現れます。これは永禄4年（1561）に建てられ、中には唐様式の優雅な天井絵があり、室町時代の特色をよく残っていて、本尊である虚空蔵菩薩が祀られています。

さらに、その背後の石段を上がった所には慶長10年（1605）に嘉隆の子、守隆が建立した鎮守堂があります。小さいながら屋根の曲線が美しくこれも国の重要文化財に指定されています。

そのほか、本堂前には国の天然記念物指定のコツブガヤの巨木やイヌノキ樹叢（県指定天然記念物）、三宝荒神像（県指定文化財）など見所の多いお寺です。

丸山庫蔵寺は正確には「丸興山庫蔵寺」といい、河内町の彦瀧さんを登り口とする標高288メートルの山腹にある真言宗（仁和寺末寺）のお寺で、鳥羽市で最も多くの重要文化財が残っているお寺です。朝熊山金剛證寺の奥の院とも呼ばれ、九鬼嘉隆が（永禄年中）鳥羽城を造る時も地鎮祭を命じられたほどで、志摩国の中でも最も位が高かったといわれています。嘉隆死後、子どもの守隆は寺領として二十石を慶長10年（1605）に与え保護しています。



「寝屋子の島留学生」がやって来た

答志小学校

本校は、昨年度愛知県より寝屋子の島留学制度の「家族留学」を利用して岸上正太郎さん（現在2年生）を、本年度は子どもだけの「里親留学」を利用して、京都府から河合佑一朗さんと群馬県から高橋美優樹さんを6年生に迎えました。

留学に至った経緯はまちまちですが「海が好き」ということで、3人が答志小学校に来てくれて、学校が活性化できたことは共通しています。また6年生に2人がやってきてくれたことで、複式学級が解消され全学年が単式学級として運営できることは、ありがたいことです。

この島での暮らしが1年以上となる正太郎さんは、もはや「答志の子」そのものみたいで、将来の夢も「漁師さんになる」と語るほどなじんんでいます。

美優樹さんは、他地域の生活・学習体験をもとに、いろいろな場面での多角的な発言ができたり、固定的になりがちな人間関係に新風を吹かせたりしてくれています。

佑一朗さんは、友達と魚釣りを楽しみ、里親さんの旅館業の手伝いをしています。さらに、6月の小学校相撲大会に、本校



6年生では唯一出場しました。相撲経験ゼロの彼は、練習当初は「すり足」もままならず、苦戦していました。先生、地域の方々の日々の指導によりめきめき上達していきましました。大会当日は予選リーグ初勝利を挙げるとともに、決勝トーナメントに進出、団体の部3位に大いに貢献しました。

それぞれの持ち味を生かしての3人の頑張りが、児童数減少が続く答志小にいろいろな刺激を与えてくれることは間違いない事実となっています。

地域の宝をみんなで輝かせる

菅島小学校学校運営協議会

菅島小学校では、6月11日（火）に、第1回 菅島小学校学校運営協議会を開催しました。

これにより、菅島小学校は、鳥羽市における初の「コミュニティ・スクール（学校運営協議会を導入した学校）」になりました。

昨年度から準備を進め、教育講演会において「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）って何？」という演題で、多くの保護者や地域のみなさんに話を聞いていただいていたことが形になりました。

学校と保護者、地域のみなさんが一体となり、菅島の宝である子どもたちをよりよく育てていくための組織です。菅島の各種団体や保・小・中の代表からなる15名以内の委員で構成し、学校運営の改善や児童の健全育成に取り組み、「地域とともにある開かれた学校づくり」を進めることを目的としています。学校運営協議会の主な役割は、次のようなことです。

- ◇校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること
- ◇学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べるができること
- ◇教職員の任用に関して、教育委員会に意見を述べるができること

また、熟議（課題解決をめざす対話）や体験活動・ボランティア活動・地域行事への参加などの活動を行います。この夏には天王祭や親子ふれあい活動、9月以降は町民合同運動会、漁業体験学習などに協力することになっています。

菅島小学校学校運営協議会はスタートしたばかりです。試行錯誤しながら、菅島の子どもたちのために、よりよい組織にしていきたいと考えています。

ご意見ご要望をお寄せ下さい

